

キュウリのミナミキイロアザミウマに対する有効薬剤について

ミナミキイロアザミウマは、キュウリの葉や果実を食害することに加え、メロン黄化えそウイルスを媒介し、キュウリ黄化えそ病を引き起こす重要害虫です。しかし、近年、多くの薬剤に対する感受性が低下し、防除に苦勞している事例も認められています。

そこで、園芸研究所および病害虫防除所では、平成30年産抑制キュウリの圃場6地点からミナミキイロアザミウマを採集し、雌成虫に対する各種殺虫剤の効果を室内で確認して有効薬剤を明らかにしました。

○アフーム乳剤

防除効果が安定して高かった。

○アグリメックおよびプレオフロアブル

多くの地点で効果があったが、効果の劣る地点もあった。

○その他

多くの地点で効果が低かった。

いずれの薬剤でも、使用後は効果を圃場でよく確認してください。

表 キュウリ圃場から採集したミナミキイロアザミウマ雌成虫に対する各種殺虫剤の効果¹⁾

殺虫剤名 ²⁾	(有効成分の種類)	IRAC ³⁾ コード	希釈 倍数 (倍)	採集地点					
				a	b	c	d	e	f
アグロスリン乳剤	(シベルメトリン)	3A	1,000	×	×	×	×	×	×
アドマイヤーフロアブル	(イミダクロプリド)		4,000	△	△	—	×	×	×
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	(ジノテフラン)	4A	2,000	△	△	○	△	×	△
モスピラン顆粒水溶剤	(アセタミプリド)		2,000	×	×	—	△	×	×
ディアナSC	(スピネトラム)	5	2,500	○	△	△	△	×	×
アフーム乳剤	(エマメクチン安息香酸塩)	6	2,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
アグリメック	(アバメクチン)		500	◎	○	◎	△	◎	○
コテツフロアブル	(クロルフェナビル)	13	2,000	×	×	×	△	×	×
ハチハチ乳剤	(トルフェンピラド)	21A	1,000	△	△	△	△	×	×
ベネビア0D	(シアントラニリプロール)	28	2,000	△	×	×	×	×	×
プレオフロアブル	(ピリダリル)	un	1,000	○	○	△	○	○	○

1) 効果の判定基準（「新農薬実用化試験実施の手引き（一般社団法人日本植物防疫協会）」を参考にした）

- ◎（効果は高い）：死虫率95%以上
- （効果はある）：死虫率70~95%
- △（効果は認められるがその程度は低い）：死虫率30~70%
- ×
- ×
- ×
-

2) 平成31年3月1日現在、キュウリのミナミキイロアザミウマ防除に使用できる薬剤

3) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構によって分類し、コード化したもの

ミナミキイロアザミウマに対して有効な薬剤は地域にかかわらず少ないため、薬剤防除に依存せず、防虫ネットやUVカットフィルム、天敵を併用しましょう。

なお、今回の結果では効果が高かった薬剤でも、同じIRACコードの薬剤を連用することによって感受性が低下する可能性があります。そのため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布してください。